



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 61

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 61. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1957, 61: 35-41

ISSUE DATE:

1957-10-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186806>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 61

1957. 9月 (10月5日)

録 事

9月はほとんど毎日のように雨が降りつづいたが、入場者は去年よりも多かった。

6～7日 日本動物園水族館協会主催の第一回水族館関係技術者のための臨海実習が当実験所で開催された。当番幹事の堺水族館長平与三松氏のあーせん努力により、北は室蘭より南は佐世保までの各地水族館関係者22名の出席をみるを得たが、折悪しく前日來進路をかえた台風10号のため、朝来雨降りとなり波高く、せーかくの海での実習がおじゃんになったので、下記の如き室内での講義に終始したのは遠来の受講者に対し御気の毒な次第であった。

- | | |
|--------------|------------------|
| 6日 9-12時 | 磯の動物の飼育管理 (時岡講師) |
| 13-15時 | 磯での生態観察 (内海講師) |
| 15.30-17時 | 水族館・動物園・博物館見学 |
| 17.30-18.30時 | スライド映写 |
| 18.30-21.30時 | 座談会及び懇親会 |
| 7日 9-12時 | アクアラングの話 (布施講師) |
| 午後一同解散 | |

席上毎年この種の講習会を開きたい希望が多く出た。

上旬に京都大学技術課長山本和夫氏に依頼してあった水族館改築設計案と取具宿舍新営業がとどけられたので、前者を早速各委員に回覧し、更に検討を加えることになった。後者に対しては実験所側委員の間で異議が出たので、20日宮地所長來所の際、協議の上、改めて設計変更を申出た。

先月18-20日の台風7号により又損した給水管系の全面的改修計画を早急に上申したのに対し、20日これが工事査定のため文部省教育施設部の岩崎弘技官、近畿財務局の蒲田守係長、京都大学技術課の服部鶴男技官が所長帯同の下に來所された。視察の

結果は、おおもね当所の希望が入れられ、根本的改修の見通しが明るくなってきたのは、同時に進めている水族館の改築案に直結するものだけに、全計画の実現化が有望になったことはよろこばしい。

なおこれが根本的改修を要する基となつて従来の給水系の不備を証明せんがため、27日布施委員に昼夜観測をしてもらつた結果を別項の資料に掲げておく。

17日町役場水道課より水道敷設位置の測量のため掛算が見えた。おそくとも11月までには実現しそうなのでやつと愁眉を開く。

9月1日付で渡瀬美佐代嬢は正式に事務員に採用された。

業務概況

◎ 9月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	5853	45835	10453	92532	16306	138367
小 人	511	5057	130	3535	641	8592
団 体	8004	70816	—	—	8004	70816
合 計	14368	121708	10583	96067	24951	217775
無 料 入 場 者				0	0	1072

団 体 : 一般 116組, 学生 5組 計 121組

◎ 9月の事業収入

(今年度累計)

観覧券売上金	465,123	3,976,623
予金積立金利子	—	345,000
雑 収 入	785	1,745
興 業 掛 下	2,000	19,300
計	467,908	4,342,668

◎ 9月の支出

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	95655	460652	
会議費	3310	70398	
備品費	10900	35300	海水比重計、観測採水器
消耗費	9940	65879	
事業費	55549	308059	
維持費	25640	123147	ウインチ電源工事化
其、他諸経費	111221	158595	秋の行楽費他
積立金	96726	811509	
合 計	408941	2033539	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研究費	—	30000	
奨学金	8000	41000	
備品費	26300	171849	青写真透視台、図書
消耗費	—	600	
刊行費	12220	227795	図書修理
役務費	—	130000	
合 計	46520	601244	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	28276	112646	
備品費	—	264520	
消耗費	—	6530	
役務費	11650	18660	
合 計	39926	402356	

臨時費

摘 要	金 額	累 計	備 考
堀海浦砂防工事	406550	466490	
博物館補強工事	101960	568450	
合 計	508510	568450	

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	40,894	2,033,539
実験所経費	4,652	601,244
博物館経費	39,926	402,356
臨時費	50,851	568,450
計	1,003,897	3,605,589

◎ 9月末現在高

前月からの繰越	3,649,180
今月の収入合計	467,908
今月の支出合計	1,003,897
現在高	3,113,191

◎ 前年度との比較

	1956	1957	増	減
入場者数	20,483	24,951	+	4,468
売上金	377,152	465,123	+	87,971
支出金	737,137	1,003,897	+	266,760

水族館記事

- ◎ 2日近畿大学養魚場よりハマチ稚魚19匹を購入したが、連日1匹づつ死亡して僅か3匹残った。
- ◎ 8日ウミテング1匹死亡、夜浸標本にした。
- ◎ 11日ツチホゼリ1匹入槽。
- ◎ 中旬にチョーチョウオ18匹が入槽したが、11匹死亡した。
- ◎ 14日ウスバハギ2匹、27日3匹入槽。
- ◎ 15日カブトガニ1匹、29日2匹死亡、ゾーリエビ1匹死亡、ウチワエビも1匹死亡。
- ◎ 16日セミホーボー1匹、ルリハタ1匹、27日ルリハタ2匹入槽。
- ◎ 20日コバンサメ1匹入槽、ウシエイ1匹死亡。

- ◎ 22日クマノミ1匹入槽。
 ◎ 24日アカウミガメ1匹を淡輪のみさき自然水族館へ譲渡した。
 29日ミノカサゴ1匹入槽。ツノダシも1匹入槽。

資 料

◎ 9月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 (H)	4	5	2
気 温 (C°)	$\frac{22.2 \sim 27.4}{25.3}$	$\frac{20.9 \sim 24.4}{22.7}$	$\frac{20.3 \sim 22.3}{21.1}$
水 温 (C°)	$\frac{25.4 \sim 27.6}{26.2}$	$\frac{24.4 \sim 25.4}{24.8}$	$\frac{23.3 \sim 24.2}{23.8}$
比 重	$\frac{19.4 \sim 22.5}{21.8}$	$\frac{20.8 \sim 22.7}{21.8}$	$\frac{22.8 \sim 23.9}{23.2}$

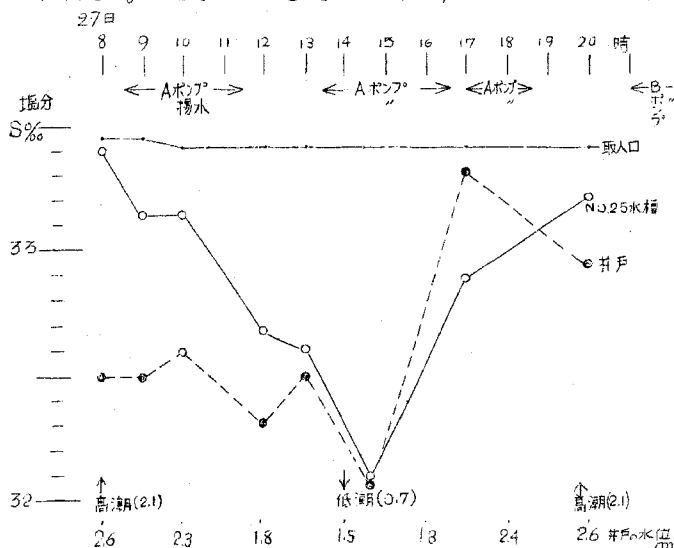
{ 気温 は南水槽室
 { 水温
 { 比重 } はNo. 25 水槽
 で9時測定

- ◎ このごろ水槽の水が濁ったり、魚が死にやすくなったりするのは、Aポンプを使った時によく起る傾向が感じられた。これについては地下水(淡水)がAポンプの吸水系(参考図参照)に浸入しているおそれがあると考えられたので、Aポンプ井戸の淡水浸入状況の調査を行った。

まず取入口と井戸の中との塩分濃度(S%)を比較すると、次の表のようになっている。

		取入口	井戸	NO.25 水槽
8月24日	18時	32.99%	31.35%	32.61%
"	25日 11時	32.77%	30.99%	
9月20日	9時	33.39%	31.60%	31.80%
"	" 15時30分	33.21%	32.90%	33.14%

これから明らかになるように、井戸の中の塩分は小さく、したがって淡水が浸入していることがわかった。ここで取入口のまわりの海水の塩分の変化もあるが、地下水浸入の状況をもっとよく知るために潮間観測を行った。その結果は次の図に示す。



塩分変化の経過：26日は夜中Bポンプにより揚水し、タンク内は取入口とほぼ同じ塩分の水となっていた。一方井戸の中は夜中浸入した淡水で27日朝には32.5%とうすくなっている。

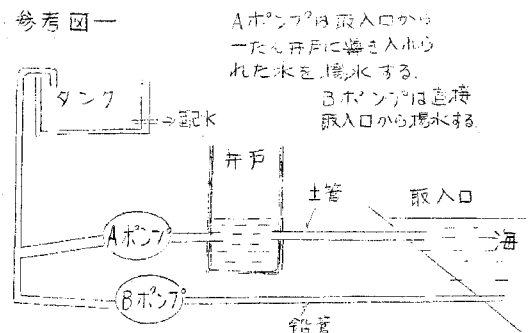
そこでAポンプを運転し、井戸の水をタンクに揚げるにしたいが、タンク内の水はうすまり、井戸の中と同じ(32.1%)

となる。27日の上潮時にはポンプを動かしていたためもあり、井戸の中の塩分はより、取入口と同じ位に近づき、少しおくれでタンク内の塩分も上っていく。ここでAポンプによる吸水をやめる(18時30分)と、井戸の中は地下水の浸入と、外から海水が入らないことのため塩分は次第に下っていく。

以上の結果からはっきりしたことは、¹⁾地下水(淡水)は常に井戸-取入口の間で浸入している。²⁾浸入量はAポンプの揚水量よりは少なく、下げ潮時には満潮時よりも多い。

海水位の上下(干満)と浸入水量とがどの程度関係しているかは今のところわからない。

— 参考図 —



来 訪 録

9月19～23日 京都大学地質学科学生白井享，石坂恭一君（アクアラング技術習得のため）

9月24～29日 北海道大学水産学部川村輝良助教授，磨井公平助手（UNESCO 依託のプランクトン生産力研究のため）

9月12～14日 東京家政大学高橋敬三教授（UNESCO 依託の多毛類研究のため）

正 誤 表

P. 30 の8月の事業収入の中 予金・積立金利子の今年度累計を 345,000 に計の今年度累計を 3,874,760 に訂正します。

1957

昭和 32 年 10 月 5 日 (No. 61)

編集兼
発行者

内 海 富 士 夫

発行所

瀬戸臨海実験所振興會
和可山県白浜町
瀬戸臨海実験所内
(Tel. 白浜温泉 515)

田名津